



新夷遊記

初編

參

三田

春

庫書	105
5	50
6	165
188	號番
40	數冊

~ 13
3093
3



吉田屋

吉田屋



朝夷巡嶋記 全傳卷之三

東都 曲亭主人編輯

初輯第五

絲の素れの幡太薄
催死と秋の蟄居

痛しうる範頼朝臣の一生涯の大厄難この日小逼りて釜中の魚屠所の
羊とちわらう成此もあひうけあつど時政が好意して兼倉殿乃御疑念釋
稍恩免のち使とめりまけりとあひとりて老臣ホが諫を聴き生平よるも
いと華や小後者さへは装いと営中へ赴死するハ時政が誓なりける能毛
三郎重成兵士駭後へ若宮蒼路又出迎へ矢庭又蒲殿主後を
推しり兼倉殿の所従い伊豆の修善寺へ入るとなすまると重成御
この処は待と久し誘ふへといそせぬ範頼と成成のあはれとて是れも

用長四編卷之三

昭和九年
三月三日
東京

間のほりふる橋太丸馬遣ふ全治部をのびやとゆかくまて遠く近のりて
 危急の和殿中彌君のおん往方をたよりさし御執否彌君のそなたらごと幡太の方の
 おのやまきとつる有友さきごと侍女們は尋問ハ異ぬあやをたて士一人
 人を小腕又抱たて走り去らんとはおぼれぬ側は侍りて専女小尾後女の
 童命死限すふ禁ハハ件の癖者些由騷がたこれの安達盛長ぬ！ 藤倉殿
 密カおんちり死受多ひく幡太の方をゆくおぼれぬとといひあへまて近づく
 の飛蹴ちげく外面へま去ぬと告げよいつく安らうばさそ彌君のつるおぼ
 と問ともおぼれぬ終てあるといふ高保うち驚き安達氏の夫人の親家
 るまがさるとおやまたん彌君さへは奪れて死しても不先の罪の脱せぬ敵内
 外又元満と刺猛火小包とこれおぼれぬとあへまて偏は夫人彌君お
 自殺を勧めたり死出三途のおん得成せんともまて甲斐もあらずとて
 まてたて安死今一戦懸散しおん往方を常夜といふ有友いあやな
 かとまておびて出んとまはは兩個の間へ互をたれとたれ長押を薙刀にて受て

倒せハ波と散る火花又似る葉衣者ども炯の中ハ乱入しと替んとするを
 高保有友左右りお受わたり二人齊一閃を刃の下ハ彼軍兵ホ首ハたれ
 礮とたれいとも列した大刀風又るの燃うつ火気煽りよあかおぼれと寄りの
 軍兵逃馬飛行しと追鬼の前面おぼれ梁お治部悉くお目をくくして半
 身既又焼爛を枝起さんとさ高保ハ養子は足飛端をくく火槍の中ハ
 礮と坐しあが朽をやを念やと送る声ハかりせしと破切る隙もあはし
 ありは一世の功名も夢の中へと立のぼる尾や長安三月の煙を融け
 黨ハ数奇ハ盡せし大厦とも不灰燼とちあつて失ふけまかつて
 みの大お刀野備杖照時の廣庭は馬を乗とえ兵士ホも今さらお



敦後
 敦時
 膳太
 の方
 後

野
 時

伊
 屋
 九
 郎
 也

ことごとく躬方ふあふぬいとあやうげなる武者一人萬蘭の侍女房を小殿に
 楚と抱えし奥より走り出づ矢度小走り留させこの未だ成程守るは彼
 武者騒ぐえさるる。これの安達藤九郎盛長が家隸小伊度勘九郎敦俊と
 のみの浦敷のちんろへの今更よりの小及びとさす夫人幡太の前へ則主人
 の愛女を白鳩丸の外孫と申すかゆりこの也母子の命乞をせむとて功ぬかえ
 所領をかえり管勤死せうせうが謙倉殿聞食勇士も老るの恩愛乃奴と
 たる鉄あられし但白鳩丸へ頼朝が仇とちかへたりのため助命の工もあひ
 うけごとそが母仔細る。照時小首を借へよとて赦免状をのりよりて
 某この條の火急の使者をうけりて下馬駿馬小鞭成鳴りし。此より當所へ
 馳せし合戦の最中たのむが津波の起生はよりし。しるすもく輝とせが
 過失あらんと思ふが跡を潜入り辛く夫人を救ひ出せしむるを述

後衣領を掛する。赦免状をとす出づ。處をんとする。是は照時ハ馬より下
 まで恭しく披る。かゝる河原の疑ふへは更陣する。和郎一人俱いあぬ
 せんハ心りしは兵士ホしく送らせんとし。敦俊は我陣合戦勝利し。と
 し。宗後の武士ホ殊伏せむ。志は今軍兵をどうちあゆん。とす。あ
 る。某むとさふゆとも。いふ。いふ。と推辞てまぐ。夫人又俱い
 せん。といそがせとも幡太の方ハ泣沈す。意ふ。いふ。と所夫又後子小別れて
 形もせせよ。口いむ。と右命るとも何ゆせん。そは親の心ころ小障ふと
 とも。いふ。只この終は棄ていね。猛火は燒き果ゆたと聞言わぬ。却させる
 各のあじう。といひあふ。又泣く。敦俊声を激く。練の賺し。と
 る。も。扶起し。遠く外面へ俱いあゆ。と。照時をを送りんと。腕
 近死兵士の。前まが立先。一町あゆ。と。弓小並刺。

響固め弦音を、鏢ど射る矢坪違を敦俊ハ七九の命残るうかきまで小
 彼駿く串れ苦し、声叫びあへばう俯小休まけり。照時ハ兵士ホハ、此れ
 乃こそ一人、大刀を抜翳し、葛地又まき、懸り、驚劇く、久く、さ
 幡太の方を捉く推伏せ、頸を切、立あがりんとする。此れ覆面なる
 一個乃武士並樹の落り、走り出、肉を大刀風、彼軍兵が頸うち落し、幡太
 の方れ、頭ゆる共、頭髻短引、搜て跡、暗く逃亡し、照時ハ、此れ残らん、
 彼脱ると主後四五人、透間ゆなく、追蒐し、こと、如法、夜たれハ、音ハ
 及む、幡太のふと、敦俊ハ死骸を、竊小と、隠させ、この、勢ハ、沙汰と、
 兵士ハ、密語く、又門内へ、引かき、照時ハ、この中、件ハ、肥前兵士、
 なる、さ、の、後、た、る、ま、け、り、か、く、高、保、有、友、ホ、宗、後、の、武、士、と、対、
 知ハ、煙ハ、喫、び、火ハ、焼、き、く、死、ま、け、り、の、い、そ、を、く、と、い、ふ、が、
 脱、し、一、人、難、兵、ホ、も、稀、ら、り、さ、は、後、ハ、刀、野、備、伏、照、時、ハ、又、小、軍、兵、と、
 白、鳩、丸、を、獵、索、く、猛、火、ハ、焼、き、く、死、ま、け、り、の、知、り、た、る、と、思、ふ、
 へ、え、さ、る、は、焼、き、く、火、を、滅、さ、し、く、賊、果、る、亡、骸、残、此、彼、と、展、
 橋、太、充、備、門、治、部、ホ、宗、後、の、武、士、の、首、級、残、齋、勝、関、二、ハ、比、揚、
 中、へ、急、は、後、又、天、ハ、や、め、と、明、け、り、案、下、某、生、再、後、範、頼、朝、臣、ハ、
 かけ、り、又、さ、る、小、後、若、寺、へ、困、居、り、日、影、ま、つ、ち、の、影、を、置、
 なる、の、り、と、稀、毛、三、郎、重、成、ハ、その、日、よ、る、と、夥、兵、ホ、く、前、後、の、門、
 庫、裡、方、丈、客、殿、ハ、同、ろ、の、時、を、く、ち、巡、見、さ、り、由、名、ハ、内、濱、
 彼、地、獄、ハ、異、ろ、く、と、大、夫、属、重、能、ホ、近、習、日、の、侍、ろ、れ、
 困、た、る、慰、め、さ、る、ゆ、ゆ、か、る、ゆ、ゆ、主、後、夏、若、日、を、か、き、
 経、手、後、ハ、有、一、丈、更、刺、人、定、り、客、殿、の、堀、ハ、乘、越、さ、る、

なる、の、り、と、稀、毛、三、郎、重、成、ハ、その、日、よ、る、と、夥、兵、ホ、く、前、後、の、門、
 庫、裡、方、丈、客、殿、ハ、同、ろ、の、時、を、く、ち、巡、見、さ、り、由、名、ハ、内、濱、
 彼、地、獄、ハ、異、ろ、く、と、大、夫、属、重、能、ホ、近、習、日、の、侍、ろ、れ、
 困、た、る、慰、め、さ、る、ゆ、ゆ、か、る、ゆ、ゆ、主、後、夏、若、日、を、か、き、
 経、手、後、ハ、有、一、丈、更、刺、人、定、り、客、殿、の、堀、ハ、乘、越、さ、る、

ありし浦殿の重能と夫人のうら孺君のうらと申らんやあらんといふことありし
 際、八月九日あり。破るに雨後の月隈る照
 らし紙窓の立在し人の影さる紙重能の信と申らんことありし
 否れつらうれりのみありと密中へ回答く右よし申る杉戸とそと開く
 刃を横ざるに裡面へ入る紙とんは別入る江流人廣通へ頼る
 いと宴とて登負をれる紙包重中なる紙解かすことありし
 思ひがけなれ對面へ絶頼の懸く藤の進む紙をあらはれ人差ありし
 白鳩丸のいふそや衛る人の隙る紙とて本は色と官へ重能も吉を
 こそわらん苗もぬ高保有友とん俱る和殿と某豫く定めしる所は
 和殿の後とてあさる。しるはるがく思ひ貴といふ廣通うちとんか
 おぬ恩義の肩多る。外中やまつると申る某かの日私宅へありし
 律をいふ人とて馬籠より君をやらせぬ途ゆて其後吉寺へ赴せ
 られし。あてま中の比及し所屋川のほとりゆく。遠く後方とて又入る
 宿のふふ當り。火も忽地ふ天へ徳を鎌倉へとて走る。彼の正兵
 火とて罵ると大とてあはれとてあはれ其れより申る
 又せの景小違りも館へハ刀野備伏照時を大おぬ軍兵器とて向れ
 橋太左衛門治部丞水要時の訪戦ひが火攻せしとて見よめることあり
 悉射死せると事果る比某のやうや走り若くはあふ捨べ死命なりと
 思ひ又、裡へ入ると不思議は獲つるものあり藤澤中へ退れし世
 の凡聞成稿もあけハ當麻太郎武弘の營中めく移れし。このあふこと近隠
 謀分明るとと沙汰せし。あふのふ及へ侍る又奥なるの天齋君は人

又成弘が為体なりあらまのなり不駕近々なりのなり魚なり來なりのなり述なりとなり侍渡所なりゆなり告なり
 せんんなり明日なりのなり鎌倉なりよりなり彼使なり入なり事なりのなり沙汰なりあれなりがなり寢期なりのなりおんなり供なりせなりまなりりなりてなり
 今朝なりのなり寺なり門なり外なり徘徊なり。夜なりのなり湯なりはなりまなりくなり都なり人なりのなり隙なりになりぬなりくなりやなりまなりりなり死なりとなり正なり首なりのなり
 告なりめなりるなりはなり浦なり敷なりのなりゆなりみなり果なりとなり果なりとなり嘆なり息なり。重なり能なりのなり廣なり通なりがなり先なり見なり智なり計なり成なり嘆なり
 賞なり。當なり森なり太なり郎なりをなり罵なりるなりのなりもなり又なりせんなりとなりゆなりかなりるなりとなりけなりりなり。かなりくなりくなりそのなり結なり旦なり相なりをなり
 三郎なりがなり夥なり兵なり本なりのなり範なり頼なり朝なり臣なりのなり近なり臣なりのなり一なり人なり増なりらなりるなりはなり然なりるなりをなり驚なりかなりれなり矢なり度なり不なり流なり
 人なり廣なり通なり引なり出なりせなりんなりとなりしなりとなりもなり廣なり通なりのなり此なりもなり動なりらなりびなり某なりのなり鎌なり倉なり敷なりとなりしなりはなり
 のなりあるなりとなり知なりるなり江なり流なり入なり廣なり通なりなりなり。主なりのなり寢なり期なりのなり供なりをなりせんなりとなりしなりとなりもなりくなりとなり來なり
 となりもなり不なり見なり入なりとなりくなり今なり又なり阻なりんなりとなりとなりはなりるなりやなりあるなり。こなりのなりとなりもなりつなり居なり
 となりたなりらなりぬなりとなり寺なり内なりへなり入なりれなりらなりるなりをなりもなりとなりしなりとなりのなり各なり位なりもなり怠なり慢なりのなり罪なり脱なりきなりとなり
 けんなり。さなりもなり脱なりきなり略なりあるなりやなりとなり同なり結なりれなりくなり理なりゆなりいなりゆなり克なり依なりこなりのなり一なり人なり増なりらなりるなり
 となりもなり何なり程なりのなりゆなりらなりあなりらなりんなり毛なりをなり吹なりくなり海なり成なり求なりんなりよなりらなり只なりうなりちなり捨なりとなりかけなりやなりとなりてなり皆なり
 咄なりたなりらなり退なりれなりぬなりそのなり早なり當なり寺なりのなり住なり持なりのなり常なりよなりらなりもなり叮なり嚀なりのなり浦なり敷なり主なり後なり成なり管なり待なりてなりさなりらなり
 うなりらなり壺なり居なりのなり憂なり苦なりをなり憂なりめなりさなりてなりいなりらなりるなり。今なり日なりのなり鎌なり倉なりよりなり彼なり使なり來なり渡なりあなりらなりはなりはなり
 豫なりくなりそのなり沙なり汰なりゆなりみなりたなりらなりらなり蓋なりりなりとなりのなりとなり在なりせなりらなり垢なりつなりたなりくなり村なり又なり不なり焦なり悴なりさせなり
 めなりひなりふなりけなりつなりとなりおなりんなり浴なりとなりいなりくなり。知なりるなりとなりとなりくなり當なり寺なりのなり温なり泉なりのなり萬なり病なりをなり治なりさなりるなりとなりはなり山なり門なり
 のなり前なりのなり川なりのなり真なり中なりよりなり漏なりれなり出なりたなり独なり結なりのなり湯なりとなりいなりふなりせなりりなり。むなりらなり高なり野なりのなり大なり師なり當なり
 國なり不なり券なり縁なりのなりわなりらなりらなり。こなりのなり地なりのなり温なり暖なりたなりらなりるなりはなりけなりりなり。四なり民なりをなりくなり温なり毒なりをなりせなりらなりつなり成なり
 憐なりてなり奥なりのなり岩なり窟なり不なり引なり籠なりりなり。加なり持なりをなりあなりかなりとなり七なり日なり七なり夜なり合なりひなり侍なり独なり結なりをなり投なりげなりらなり
 こなりのなり山なり川なり不なり儼なりとなり落なりとなり其なり処なりよりなり温なり泉なり漏なりれなり出なりたりなり。そなりのなり後なり里なりへなり石なりをなりりなりくなり入なりれなり
 ろなりのなり独なり結なり成なり造なりりなり件なりのなり温なり泉なりのなりほなりとなりとなり小なり立なりとなり云なりとなり名なりけなりらなり。偏なり不なり太なり郎なりのなり
 大なり功なり徳なりをなり亡なりとなりのなり為なりふなりわなりんなり加なり以なり川なりのなり上なり下なり如なりくなり小なり出なりるなり湯なりあなりらなりとなり石なりをなり置なりてなり湯なり

となりもなり何なり程なりのなりゆなりらなりあなりらなりんなり毛なりをなり吹なりくなり海なり成なり求なりんなりよなりらなり只なりうなりちなり捨なりとなりかけなりやなりとなりてなり皆なり
 咄なりたなりらなり退なりれなりぬなりそのなり早なり當なり寺なりのなり住なり持なりのなり常なりよなりらなりもなり叮なり嚀なりのなり浦なり敷なり主なり後なり成なり管なり待なりてなりさなりらなり
 うなりらなり壺なり居なりのなり憂なり苦なりをなり憂なりめなりさなりてなりいなりらなりるなり。今なり日なりのなり鎌なり倉なりよりなり彼なり使なり來なり渡なりあなりらなりはなりはなり
 豫なりくなりそのなり沙なり汰なりゆなりみなりたなりらなりらなり蓋なりりなりとなりのなりとなり在なりせなりらなり垢なりつなりたなりくなり村なり又なり不なり焦なり悴なりさせなり
 めなりひなりふなりけなりつなりとなりおなりんなり浴なりとなりいなりくなり。知なりるなりとなりとなりくなり當なり寺なりのなり温なり泉なりのなり萬なり病なりをなり治なりさなりるなりとなりはなり山なり門なり
 のなり前なりのなり川なりのなり真なり中なりよりなり漏なりれなり出なりたなり独なり結なりのなり湯なりとなりいなりふなりせなりりなり。むなりらなり高なり野なりのなり大なり師なり當なり
 國なり不なり券なり縁なりのなりわなりらなりらなり。こなりのなり地なりのなり温なり暖なりたなりらなりるなりはなりけなりりなり。四なり民なりをなりくなり温なり毒なりをなりせなりらなりつなり成なり
 憐なりてなり奥なりのなり岩なり窟なり不なり引なり籠なりりなり。加なり持なりをなりあなりかなりとなり七なり日なり七なり夜なり合なりひなり侍なり独なり結なりをなり投なりげなりらなり
 こなりのなり山なり川なり不なり儼なりとなり落なりとなり其なり処なりよりなり温なり泉なり漏なりれなり出なりたりなり。そなりのなり後なり里なりへなり石なりをなりりなりくなり入なりれなり
 ろなりのなり独なり結なり成なり造なりりなり件なりのなり温なり泉なりのなりほなりとなりとなり小なり立なりとなり云なりとなり名なりけなりらなり。偏なり不なり太なり郎なりのなり
 大なり功なり徳なりをなり亡なりとなりのなり為なりふなりわなりんなり加なり以なり川なりのなり上なり下なり如なりくなり小なり出なりるなり湯なりあなりらなりとなり石なりをなり置なりてなり湯なり

修善寺
範頼
死を賜ふ



大友の廣通

大友の重隆

ちん顛頭ちんとありつゝちん稲毛重成いなげのちげなりのりとのみ謙舎けんしゃへかへるかへる福住持ふくぢうぢの遺物を
 齎しよしくしよ後使ごし又また跟おれてお来きりき。あつても実檢じつけんの義ぎ不ふ及及びび且且も首級くびぐわいを
 寺てらへかへかへせせるるひひとと主後しゆごの亡骸むかし或ある井いららせせららひひとと是下こゝりりされらばば祐茂すけしげ亦また給たまははるる
 殺ころのの為ためとと謙舎けんしゃ歎なげかかへへ修しゆ口くち寺てらよりより進まりりせせるる件けんの遺物いぶつををららせせたたははるる
 とと其下そのしたの左右そのひだりみぎゆゆ稲毛いなげ三郎重成さぶらうぢげ安達藤九郎盛長あんだとうきゅうせいぢげ結城七郎朝光むすしぢげ海野太郎うみのたろう
 幸氏ゆきぢ之の候ごうひひとと頼朝よりと卿けいの委細よりとの縁ゆかりの縁ゆかり聞きるる彼遺物かゝいぶつをを亦また内うちにに付つけふふたた二に尺
 ありありままるるととたのたの白木しろきの櫃ひつちるるとと蓋ふたの釘かぎ残のこりりとと打うちちちてて八はち方ほうの封皮ふうひ取とりり。駒こまと
 海野幸氏うみのゆきぢとと披ひらいていて河か覽らんままるる小夾服せうがふく紗さとと包つつむむののとと一通いつぱうの書翰しよかんありありととけけここ
 おおづづ包つつむむ物もの式しきととくく服ふく紗さをを解とけけてて入いるるへへ年とし二十にじゅうととなるなるととたのたの女むすめとと在ありり
 歳としととおおひひりりたた男おとこの生頸なまぢととるる報うらひひががけるける死しととたのたの目め袋ふくろ皆みな呆あはれてれて目めを
 睨にらみみ。おおののくく口くちをを鉗くわんととりり。ささととけけここの幕下まくしたゆゆ駭おどかかるる乳色にゅうしよももなくなく。その
 状じやう続つづめめとと宣のたまへへ結城朝光むすしぢげううけけののりりととくく声こゑ高たかかかりりとと不ふ主後しゆご耳みみをを側そばとと
 齊いっ一ぱつとと言いひひてて残のこりりちちゆゆばば
 範のり頼よりと謹けん白はく。昨きのう。尊命そんめい反覆はんぷく見み謫しやく干豆かんぢう修善寺しゆぜんぢ。
 今いま又また兩使りやうし到きた來きた賜たまははるる屬婁しよろう臣しん非ひ其罪そのつみ被かりり莫な大だい
 之の讒ざん。
 幕下まくした責せ臣しん以もつ武弘ぶくわう狼藉らうしやく臣しん何なに為な知し之の雖な不ふ知し。
 疑ぎ似に不ふ能な辯べん以もつ貝錦かいきん成章成章之の深ふか也なり。願ねが武弘ぶくわう可か。
 為な似に見み戲ぎ雖な至いた愚ぐ必かな有あ縁ゆかり故ゆゑ美み速すみ令しん捕とら之の而して。
 不ふ考かう其その詭ぎ秘ひ問と其その來きた歷れき先せん者しや不ふ甦そ罪つみ歸かへ乎や。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。

月長刀輪卷三
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛あんだせい。
 人ひと固かた非ひ公道こうどう。仄聞いつぶん臣しん踰こ足そく柄へい之の日ひ。
 幕下まくした使し刀野照たのてい時とき燒や濱は驛えき第だい蒨しん婦ふ父ちち安達盛

長聞之不堪哀悼。造於營而乞命。
 幕下辱賜書以赦荆婦。盛長則使私卒伊庭
 敦俊傳赦於照時。照時聽命不能阻之。竊
 殺荆婦與敦俊嫁之于兵火。是夕家臣江廣
 通者不圖而與此抵觸。復怨於其後。而奪
 去荆婦頭顱携來而告臣。於是乎肇知危臣
 者蓋照時之徒也。然而私臆不敢獻其首
 二級以乞鈞裁。一則荆婦首級也。一則照時
 幕下裂然高斷。鋤奸解冤。臣死且不朽。古語
 有之。叢蘭欲靜。秋風動之。賢君欲明。諛間蔽
 之。悲乎哉。三致虎於市。則人人必信焉。告曾

參殺人。其母竟投村。臣富附驥之功。受杜患
 之備。狡兔已盡。良犬就烹。不及者亦如此。臣
 臨終不知所吉。訴緘怨以遺詔。緇流憲覽
 不怨幸甚。
 建久四年癸丑秋八月 源範賴再拜
 せむらゐる。頼朝卿へつづく。と聞る。眉を聳め。あつちを流るるもど
 あは。藤九郎へいふ。そぞ。と問せ。人へ盛長の席を避く。頼朝つれ。愚意の誠。ひ
 浄波のどろ。その夜。浄教書。我齋へ遺。浄波は。敦俊。人へいふ。浄波。死
 と人。いひ。我。あつち。ひく。け。あつち。ひく。ひ。浄波。違。く。幡太の前。と敦俊。書
 害。照時。底。測。ひ。と。死。会。く。回。答。せ。ら。ち。点。ひ。つ。

さしづとよそのるる照時がひつる闘戦既ニ撈利弒ぬく。ちや火を
 放す此安達が使走多し。津教書弒逸与せし。幡太の前を救ん
 り。かろふべし。ゆゆと焼落て後骸るる。素知しをせせし。
 と諭せし。彼使者ハ一切を弒うけ引む。彼夫人を救んとて。
 煙を犯し。猛火弒凌死後堂へといひく。やぶ果しと焼
 亡しひたと実し。やぶ告し。やぶ汝の云と。鏡示せし。
 奇怪のゆゑ照時弒召しせよと。辭せし。くいつた。また
 多し。稲毛三郎うけ多し。遠侍人退出る。ま。

初輯第六

截落走刀野命
 汝又返る湯嶋檜

稲毛三郎重成が妻の頼朝卿の北の方。政子の妹うけけ。

時政が為ゆめ女誓あつる。裕といひ恰といひ。勢力ははく
 のん青雲の楷榜ゆせん。と志念弒運ぶ。又渠が
 虎の威を藉く。いと無礼と。するゆめ。弒あつる。
 さしづ稲毛三郎の幕下の気色平あつる。刀野兼杖
 照時を弒せし。津定我ちや。受まじ。遠侍へ退
 下。回より。あつる。そが隨津定の弒照時へ。ま
 言中。この條の弒密中。小書。ゆめ。腹心の私率。と時政
 みぞ告りける。却後北條時政の女誓の稲毛が密書をえ。あつる
 勿心安う。と。内室牧の方。如此。この。その。あ。つ。小。せ。ほ。と。耳。語。ハ
 牧の方。あ。照時。ハ。後。才。又。重成。の。女。誓。の。ま。つ。づ。と。疎。み。あ。ね。と。の
 後。才。一。人。の。惜。む。み。足。と。只。口。ひ。め。と。す。の。た。の。彼。人。禁。獄。ち。と。せ。ら。れて。呵。責。め。ら。れ。た。



庭は生拘られ鞠問せらるるその餘殃は大人ゆぞ及ぶらん某は我も
 故小當麻太郎は殘残負ひ當座は殺しゆひ死此度のゆひそれゆもま
 輒く脱はせしゆもあは彼鄙語我は多かりや腹小脊ハ代ご一太の虫之助
 へく小の虫之助殺せしゆり愚意我のくまはとたんとや照時を招死よせ
 カ士をのくこを我刺せく彼りの密謀糸頭のよ我ゆらとや彼はやく脱
 へく路ゆと心ひまん自殺していと幕下へゆえあけめり君はさるる誰
 こが大人を疑ふべ死さるる安達が恨もむのづう解さらんや照時の罪
 蒙りて自殺せしゆまはゆとも所領はかるるを召放されるんこが大人私よその
 子ともの坐ともあり杖ともあり杖持し親が刃むとるよ宗さうけく
 こが家よ係は難義を譲ふとほそ徳は報ひめり渠が子ともはこはるの情
 由を後とせしゆも志願しゆるる口忝くさるべ一こは彼小の虫を殺して太

虫と助るちる照時へこが母の一族ふいば不便小思召べと腹は背へのえは
 邊と志願しゆるる及ぶべしゆとととせしゆは牧の方ハ思ふよ小観あはハ一袋ハ
 向さればこはるる杖の杖り我時微に付は再度の難義を脱しゆるる時
 踏めよととと共小効めしゆ時政吻と息の死時が計策さるる
 こが意小稱へりこはるる彼備杖ハら妻の後方をとるるさるるけゆ引
 さるるかして再々何れは残せん足をかたの死のく照時を召よせしゆと
 誰ふ分付く備杖を刺さるるこの死時時あふと誰とと擇ぶまはゆ
 ひりま老堂湯嶋本進基勝の拳法相撲の技小長十人かちるるあは
 少うはとれ當麻太郎とその師我共ゆと武藝を習ひ送よあけはあはと
 勸るる我及びるるしゆり志も件の密謀を果るるはしてさるるあは
 むいひりやとまはるる耳語ハ時政志はるるうち志願現かののテもる

る。い。こ。が。妻。の。木。三。進。の。縁。由。を。示。し。ぬ。時。を。走。り。て。照。時。を。召。び。い。は。り。
 い。そ。や。と。焦。燥。の。牧。の。方。の。基。勝。の。説。示。ん。と。く。潜。中。よ。蒸。襖。を。推。開。す。七。五。の。
 加。入。走。り。と。ま。り。時。の。小。棚。なる。料。帝。硯。を。と。り。と。あ。ろ。し。く。遠。く。黒。淵。を。
 照。時。を。招。け。よ。ま。る。書。状。を。取。り。め。と。る。箱。に。近。習。某。甲。走。り。来。り。紙。門。の。遠。り。
 さ。一。説。を。敷。ぬ。其。処。又。も。ま。ま。と。や。刀。野。の。身。を。せ。し。と。告。げ。成。せ。り。時。政。を。
 意。と。い。ひ。ぬ。時。目。を。注。し。く。方。を。起。し。わ。り。の。風。が。吹。せ。り。お。ど。ろ。ろ。と。
 と。り。来。り。牧。の。方。の。基。勝。の。か。の。後。を。告。げ。致。公。り。と。い。ひ。け。て。書。院。の。
 加。入。赴。け。ば。時。の。書。中。の。果。は。書。状。と。細。く。引。割。り。推。開。す。袂。の。納。し。縁。頼。り。
 遠。く。出。る。客。房。の。う。え。の。ひ。ね。ぬ。こ。る。箱。に。刀。野。備。杖。照。時。の。西。三。日。度。分。せ。り。
 執。権。の。安。不。成。回。さ。その。息。り。成。賄。給。ん。と。く。後。者。の。い。と。者。畧。し。こ。の。死。既。又。
 詰。来。り。固。より。通。家。の。と。り。中。一。め。と。る。後。門。より。進。入。り。當。番。の。若。黨。の。

門。せ。り。出。迎。へ。客。房。へ。と。誘。引。し。且。の。う。へ。に。ま。ま。と。う。え。と。く。出。居。の。う。え。退。り。け。り。
 志。を。く。く。と。奥。の。く。ま。り。備。杖。と。く。と。ま。の。ひ。ね。ぬ。こ。る。箱。に。入。り。く。こ。の。母。
 對。面。の。ひ。ね。と。い。ひ。ぬ。こ。る。声。の。ま。ま。と。く。時。の。照。時。の。阿。と。意。あ。へ。刀。を。引。提。
 只。む。と。と。い。ひ。ぬ。こ。る。方。へ。と。い。く。箱。に。ひ。ね。ぬ。こ。る。左。の。ひ。ね。ぬ。こ。る。金。屏。の。背。上。り。
 當。家。の。老。堂。湯。崎。基。勝。の。下。緒。を。禱。中。に。袴。の。稜。を。高。く。取。り。蟲。の。と。く。
 飛。り。ま。ま。と。く。照。時。を。ま。ま。と。く。組。む。と。狼。藉。や。と。照。時。の。振。解。ん。と。身。を。反。正。せ。り。既。又。
 利。を。取。り。と。い。ひ。ぬ。こ。る。箱。に。四。つ。ひ。ね。ぬ。こ。る。合。志。を。一。が。箱。の。挑。り。が。抜。り。力。も。
 遠。く。あ。り。た。湯。崎。の。ひ。ね。ぬ。こ。る。照。時。を。い。ひ。け。り。軟。骨。を。擦。り。軀。を。脊。
 の。不。懸。く。短。刀。を。引。提。す。頸。筋。か。ん。と。ま。る。箱。に。反。張。り。ぬ。こ。る。の。の。の。や。あ。り。
 けん。忽。地。は。腕。麻。と。て。既。又。刀。を。さ。し。と。ま。る。あ。ろ。し。く。と。い。ひ。ぬ。こ。る。照。時。の。
 伏。つ。も。腰。刀。を。引。提。す。基。勝。が。太。股。より。小。腹。の。う。へ。ま。ま。と。く。と。刺。り。友。を。ま。ま。と。



子父の方

刀時



父子相謀
取時
刺

Red seal impression

とつひのうら。基勝ハかゝる。照時ハ既聖皇を放さざり刺さるまふ別あがて中や
 頭を掻てけり。さしども刃ハ項より及び照時ハ既を死切りて即座死す
 基勝ハ深癩よりとりぬ。後時ハたぬ。小薙刀と突立。同ちりまはりて
 時政ハ次ノ房より。基勝ガ勢ひひる。為体を嗣親。好まらざるせよ
 けり。わけて縛果より。一ノ時ハ忙しく。近習の内の。或る聚備杖ハ乱心。あはれ
 この丸も。木箱。腰刀を引抜た。忽地。自殺。又湯崎。基勝。かみ
 為体。小警劇。抱た禁人。と。深癩。と負ひぬ。備杖。が後者の。老。と。内。の
 とも。この。熱。竊。告。て。まの。死。體。い。せ。よ。し。さ。と。く。劇。驢。へ。う。ら。む。
 一の。あ。ろ。を。ゆ。させ。よ。と。叮。嚅。は。現。示。せ。る。け。り。ぬ。と。一。面。外。面。走。り
 去。則。件。の。短。刀。野。が。後。者。小。告。り。が。衆。皆。呆。れ。盡。み。の。固。り。や。あ。る。ハ。格。家。又
 通。家。多。し。疑。り。ぞ。老。と。り。後。者。而。三。人。許。さ。り。ぬ。奥。入。り。主。の。亡。骸。と

又。る。程。小。後。時。ハ。正。首。小。彼。小。致。慰。め。諭。せ。り。後。者。ホ。ハ。一。様。小。及。び。さ。と。ゆ。も
 の。小。も。穩。便。の。お。ん。沙。汰。と。あ。こ。希。へ。が。後。時。の。と。あ。る。ち。あ。る。が。亡。骸。を。竹。輿。小
 乗。り。等。へ。還。り。く。管。中。ハ。の。短。刀。の。え。あ。げ。よ。と。又。か。て。さ。る。ゆ。め。の。成。り。く
 執。事。の。ゆ。ら。や。と。諭。され。頼。を。つ。た。い。く。執。事。の。内。庭。ゆ。ら。と。く。孺。子。小。家
 賢。と。多。く。ハ。歎。死。の。中。の。幸。入。仰。は。後。ひ。ま。つ。ら。ん。と。意。と。主。の。亡。骸。を。輿。て。竹
 輿。小。乗。せ。り。衆。皆。等。へ。入。り。け。り。と。一。條。小。か。へ。り。ひ。て。深。癩。小。ゆ。り。る。湯
 嶋。を。敷。る。ゆ。め。の。な。り。く。バ。時。政。ハ。叮。嚅。は。この。苦。痛。と。同。慰。め。側。り。入。の。た。た。成
 る。耳。の。ゆ。り。へ。口。と。せ。汝。ハ。あ。る。と。照。時。を。組。伏。し。る。と。死。速。小。刺。中。殺。て。癩。を
 負。し。居。り。首。を。死。せ。り。自。殺。と。い。ふ。事。あり。と。い。ハ。有。勢。の。地。に。あ。る。人
 細。小。眼。或。睜。り。時。定。む。ゆ。ゆ。も。某。既。小。照。時。ぬ。の。頭。或。搔。ん。と。い。ハ。い。と。死
 背。の。こ。小。人。あり。と。右。の。腕。を。破。と。撲。ぬ。驚。死。と。い。ハ。元。ハ。鼻。あ。る。と。く。非。欺。と。

管中めく自殺させし。當麻太郎在弘へ怪しむ。とあり。平比小煙の如く見え
 したる。その撲きたる如くあり。指の跡まじく癩麻まじく刃を引上り運つし。い
 遂は下より刺れり。瘻を看し。後臆の筋は舊の如くふる。しるは彼人を
 刺とあり。といふ。吉の杪枯の虫の音よま。細り。その夜の霜と消くけり。
 時政ハ當麻が冤魂其基勝は宗とるより。死ゆめく。あえ。又愉く。後時小の
 その。死竊小告く。さ。その。か。折汝其基勝を援く。や。死く。さ。さ。
 可惜をの。死殺と。ま。死。小。器械を。命。な。ら。う。づ。づ。ふ。ち。ま。り。に。し。を。
 ぞ。ふ。し。あ。つ。る。の。な。る。ま。や。と。同。ハ。莞。余。と。う。ち。笑。ま。く。所。存。た。く。て。や。い。は。死。
 この條の密行ハ基勝と。預。と。と。渠。腹。心。の。め。と。い。ふ。と。も。殺。し。や。と。た。る。
 心。る。と。切。は。鑿。り。ま。く。主。を。侮。し。罷。衰。る。が。竊。小。恨。く。彼。密。謀。成。入。よ。告。ん。に。この
 折汝の。基勝と。の。共。は。殺。と。た。る。ハ。や。ま。く。後。を。と。ら。ま。ん。この。内。を。又

其ハ。い。く。深。痕。を。負。し。り。又。基勝が。目。小。ん。え。當麻太郎が。冤魂ハ。渠が。命。
 数。と。た。は。又。及。び。日。来。む。又。む。ひ。の。死。幻。は。ん。の。是。則。迷。ひ。怪。め。ふ
 正。く。と。その。堂。と。坊。徒。と。く。詳。小。答。ま。づ。時政ハ。あ。の。ま。も。小。勝。鼓。く。感。嘆。し。汝ハ
 智。と。の。ひ。量。と。い。ひ。親。ゆ。ハ。迥。優。ま。よ。け。ま。づ。宿。願。ハ。汝。が。世。又。か。る。と。成。就。せ。ん。
 衣。裳。と。更。め。管中へ。系。る。指。は。又。彼。刀。野。が。家。臣。ホ。ハ。照。時。が。子。る。る。太。郎。時。夏。が。使。者。と
 志。く。管中へ。系。上。し。主。の。自。殺。死。祈。多。く。この。日。右。幕。下。頼。朝。の。指。毛。三。郎。重。成。く。
 刀。野。照。時。を。召。せ。し。ひ。が。政。勢。は。紛。ま。く。彼。人。の。違。系。外。口。の。な。は。安。達。藤。九。郎。盛。
 長。ハ。鬱。憤。を。や。う。く。も。ろ。く。み。ん。が。い。ゆ。た。て。引。の。く。来。わ。ん。と。又。た。私。は。催。促。と。入。た
 ところ。な。は。公。頼。ハ。焦。燥。の。も。この。日。由。西。へ。渡。る。比。は。刀。野。太。郎。が。祈。あ。り。執。槍。時。政。の
 亦。系。し。く。照。時。自。殺。の。意。成。ゆ。え。あ。げ。な。ま。す。幕。下。ハ。實。元。盛。長。ホ。を。更。ふ。公。文

所は召集する件を決定し又時政廣元は範頼の送物なるもの首級と被
朝臣の送書死せしめしむ。幡太の前と安達が使、敦俊が横死する。照時が罪
あり。ついで死罪の趣、告多へ。時政は今をめぐり。ついで死罪はあつて死
又よろち敬る。死かまは。鎌杖照時ハ緯、幾光。とをわ。知。脱。路。乃。死
故。刃。又。伏。するものたのべ。盛長も愛女を殺せし。送恨や。た。な。う。ん。死
この私。う。ら。あ。が。う。照時が。あ。め。あ。ろ。る。か。し。渠。蒲。願。宿。怨。あり。や。又。盛。長。ハ
意。致。あ。る。と。欽。と。ま。ま。か。か。ま。ま。死。罪。は。昔。は。罪。か。ろ。う。と。い。と。理。非。正。げ。は
影。中。せ。る。廣。元。雲。時。沈。吟。し。あ。ろ。ま。と。い。し。も。分。明。る。と。照。時。既。死。し。て。は
罪。科。一。等。を。宥。ら。ま。と。あ。ろ。る。と。い。わ。と。や。け。り。と。り。と。刀。野。太。部。が。使。者。よ。その。夜
廣。通。不。移。せ。し。る。兵。卒。の。名。と。尋。し。ま。ま。が。渠。ハ。照。時。が。後。才。ゆ。い。昔。日。戸。舟。九。郎
綱。道。と。い。ふ。の。た。り。ま。か。ま。が。且。時。夏。ホ。よ。か。し。ま。ま。と。る。へ。死。上。責。死。せ。し。ま。せ。て。

その使者を還し。幡太の方の首級を。安達藤九郎に。あ。ろ。ま。と。い。と。く。看。せ。く
二。日。以。葬。せ。せ。又。舟。九。郎。が。首。級。と。な。次。の。日。由。比。濱。に。集。ま。せ。て。幡。太。の。方。を。殺。れ
と。安。達。が。怒。を。和。解。せ。し。時。政。廣。元。ホ。が。與。り。刀。野。盛。長。ハ。か。く。逃。れ
お。り。や。け。し。し。制。度。は。感。佩。し。く。中。憤。り。死。散。し。け。り。盛。長。が。刀。野。小。右。衛。門。の
さ。る。程。は。鎌。倉。殿。の。あ。ろ。ま。と。い。と。評。議。を。な。し。死。せ。し。と。刀。野。太。部。時。夏。を。下。野
つ。と。流。し。渠。ハ。年。ま。で。十五。は。満。ね。と。その。親。の。罪。重。た。り。と。軀。て。野。帶。を
波。官。と。流。罪。小。知。ら。め。う。う。少。年。と。い。ふ。遠。く。ぬ。田。舎。小。由。縁。あ。ら。う。と
廣。元。執。り。ま。う。せ。し。う。ら。ろ。う。と。い。ふ。あ。ろ。ま。と。い。と。さ。て。由。件。の。時。夏。ハ。今。茲。十
三。歳。な。る。ハ。母。親。へ。い。ぬ。る。春。景。春。は。病。と。又。ま。あ。る。ま。の。こ。の。妹。ハ。父。自。殺。し。と。こ。が
う。い。ふ。は。罪。被。り。毛。の。刈。へ。と。く。赴。け。後。類。奴。婢。ハ。離。散。し。と。く。只。身。に。し。て。心。の
旅。の。空。由。た。て。選。る。よ。う。も。あ。け。し。と。時。政。竊。よ。と。は。死。扶。助。し。て。外。た。か。ら

吉田屋

送る。腹心の家隸小者。賈賤。齋とて。是け。旅宿中。却豊。衆人。
 似かりけり。加以下野。足利。左馬。兼。時政。女。
 買の内意。受。件の少年。を迎。いと懇。管。
 謙倉。又。物。二町の宅地。を構。奴婢。召使。その。郷士。
 日毎。近村。を横。畜。放。狗。走。
 庄客。の。侮。足利。殿。の。客。分。
 時夏。の。威。勢。あ。ち。
 附。て。前。出。せ。る。捕。像。の。ち。義。時。が。為。体。本。文。の。
 元。勝。と。相。替。ま。る。
 像。あ。ら。せ。し。亦。是。画。工。の。用。心。



朝夷巡島記全傳卷之三

終

